

傍聴者の声

議会を傍聴された鈴木美佳さん（高田町・自営業）から、その感想を伺いました。

【Q】議会傍聴は何度目ですか。

【A】動画配信（YouTube）は何度も見ているが、議場に来たのは初めて。時間的に都合が良かったので傍聴に来てみた。思っていたより傍聴者が少ないことに驚いた。

【Q】傍聴に来る動機は。

【A】ホームページであらかじめ質問内容を知ることができ、それに対する市の考え方がどうか関心があったから。

【Q】内容等については。

【A】傍聴者や動画視聴者が分かりやすいように、質問の意図と答弁の仕方を工夫し、かつ、ハッキリ話して欲しい。

傍聴席から議員の顔が全く見えない。動画では見えないのが残念。動画配信と違い、臨場感があり、機会があればまた傍聴したい。

【Q】要望があれば。

【A】傍聴に来るのは難しいが、市政・議会に興味がある人は多い。折角の動画配信があるのだから市のLINE等からリンクがあれば良いのでは。議員がそれぞれ何をしているかSNS等を活用し、選挙期間だけでなく個々の考えや活動を知らせてほしい。（担当・菅野広紀）



第15回 がんばっています!!

市内の団体や個人を紹介します。

現代美術家 **濱口 芽さん**

先日、岡山県で新作を展示する機会をいただきました。作品というと絵画をイメージする方もいると思いますが、私は既存のジャンルを超えて作品を作ります。CDの破片をつなげたり、様々な日用品を包帯でぐるぐる巻きにして展示をしたり。絵画であれば作品だけ展示場に送ることもできるのですが、私の場合は自分も現地に出向き、展示場に合わせた配置などを行います。できるだけ在廊（展示場に制作者本人がいること）を心がけていて、観てくださった方の感想を聞くのが喜びです。制作者本人も気づかないことを観てくださった方々から教えていただいています。また、先日は奥州市で本の朗読の企画があり出演してきました。『現代美術家として様々な活動をしているね』と周囲からも言われます。でも「表現が好き」ということは一貫していると自分で思います。陸前高田を拠点に、心は身軽に全国で表現活動を続けていきたいです。



CDを用いた自身の作品の前に立つ濱口さん

※第125号の第14回ががんばっています!!に掲載した濱口芽さんの記事で、誤解を招く表現があり、関係者の皆様にご迷惑をおかけしましたことをお詫びいたします。

あとがき

議会だより特別委員会はメンバーを大幅に入れ替え、新人議員3名を含む7名で議会情報を皆さんにお届けします。

30年以上も前から議会だよりは議員手づくりで発行してまいりました。デジタル化が進展する今の時代、情報発信手段は多様化し、SNS等でリアルタイムに発信することも可能です。

私たち編集委員は、市民と議会をつなぐ議会だよりが、議会情報を皆さんに一方的に「伝える」という自己満足から脱却し、「伝える」ことを念頭に、読者目線で、分かり易い表現で読んでもらう紙面づくりを工夫してまいります。

新体制のもと動き出した私たちに、皆さんから「議会のココが聞きたい!」と言うご意見や感想をお待ちしております。

（菅野議会だより特別委員長）